

Tnf α Expression by Myeloid Cells in Ascites Regulate Colorectal Cancer

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2020-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土谷, 祐樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002461

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2215 号

TNF- α secreted by myeloid cells in ascites regulate colorectal cancer

TNF- α による大腸癌腹水中骨髓球の制御機構

土谷 祐樹 (つちや ゆうき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、手術可能な大腸癌患者の腹水中の CD14+は、M1 の作用を持ち、TNF- α によって癌細胞の増殖を抑制することを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。一般的に、腫瘍組織または末梢血の CD14+マクロファージは、初期段階では腫瘍細胞に対して直接細胞毒性を示し、後期段階では癌細胞の増殖をサポートされている。現在は、腹水における CD14+マクロファージの機能については、ほとんど知られていないため、今回大腸癌患者の腹水の炎症細胞の機能を評価した。大腸癌腹水中のマクロファージは M1 マーカである TNF- α が高発現しており ($p<0.01$)、ARG1 が低発現であった ($p=0.04$)。さらに癌細胞と CD14+の共培養では、有意に癌細胞の増殖を抑制し ($p<0.01$)、抗 TNF- α 抗体によってその効果は解消された ($p<0.01$)。近年、TNF が炎症の中心的な役割を担い、発癌のプロセスでも利用されている。TNF 拮抗薬の治療により、進行癌患者の 20%で病気の進行を抑制もしくは状態の維持が可能であったと報告されている。今回、手術可能な大腸癌患者の腹水中の CD14+は、M1 の作用を持ち、TNF- α によって癌細胞の増殖を抑制することを示した最初の研究であり、腹水中の微小環境の研究の第一歩になったと考えている。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。